

<全体分析>

試験時間	90	分
------	----	---

解答形式

論述形式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問4題、各問200字程度 (総字数800字程度)

出題の特徴や昨年との変更点

時代については、例年通り古代・中世・近世・近代から1題ずつ出題された。分野については、政治を中心に外交・文化からも出題された。設問形式は、歴史事象の内容・特徴や理由を問う問題が3題 (I・II・III)、歴史事象の展開を問う問題が1題 (IV) という構成となった。

その他トピックス

- ・(II)は2010年度入試「室町期における貨幣経済の発展と幕府の対応」の類題である。
- ・(I)は2022年度河合塾テキスト冬期講習『日本史論述演習』第1講3問1、(III)は2022年度河合塾テキスト『日本史 論述』第6章基本問題8がズバリの中。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
(I)	論述形式 (200字程度)	古代 政治	摂関政治の特徴 天皇の外戚の地位獲得、摂政・関白としての政務の後見や人事権の掌握といった摂関政治の基本的特徴を指摘するとともに、公卿による審議や文書の発給など、国政が太政官機構を通じて運営されていたことを論じたい。	標準
(II)	論述形式 (200字程度)	中世 政治	室町幕府の収入源とその特徴 室町幕府の税目の名称を単に羅列するのではなく、幕府が経済の中心地である京都を拠点としたことを意識し、幕府財政が商品・貨幣経済を基盤としていた点を論じること。収入源については、守護の分担金や京都五山の僧侶への課税などにふれてもよい。	標準
(III)	論述形式 (200字程度)	近世 外交	江戸幕府が糸割符制度を設けた理由 中国産生糸貿易の利益を独占していたポルトガル商人を対象としていたことを指摘した上で、糸割符仲間による生糸の輸入価格の決定と一括購入を制度の内容の軸として述べること。	標準
(IV)	論述形式 (200字程度)	近代 文化・政治	明治期における新聞の展開 時期区分を明確に行った上で、各時期における新聞の動向を、自由民権運動・条約改正・日露戦争開戦などに関連させながら述べたい。なお、1880年代以降の動向については、政党の機関紙や国権論者らの新聞に言及してもよいだろう。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ①大阪大学の論述対策の基本は、歴史事象が生起する要因・背景やその影響・意義など、論述の基本知識を丁寧におさえていく日常の学習にある。教科書を熟読し、単なる用語の暗記ではなく、理解に重点を置いた学習を心がけること。
- ②時代では、古代・中世・近世・近代の各時代から1題ずつ出題されるのが基本なので、それを念頭に学習を行うこと。なお、原始・戦後についても一定の準備は怠らないこと。分野では、政治を軸に社会経済・外交・文化など他分野との関連を踏まえた学習に配慮すること。
- ③論述答案の作成力は一朝一夕には上達しない。設問文に込められた出題者の意図の読み取り方や答案作成の手法を身につけることが肝要である。論述の学習方針を早期に立てて市販の問題集や過去の問題を解き、できる限り添削指導を受けて自身の答案作成能力を点検すること。
- ④大阪大学では、近年、過去の出題テーマと類似した内容の出題が見られるので、過去の問題で扱われたテーマについてはしっかり学習しておきたい。